

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立志賀高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い
1 学力の向上 一人一台端末の活用を通して、魅力ある教材及び指導法の工夫等により、生徒の学ぶ意欲を高め基礎学力の向上を図る。	① ・ICTを活用して生徒が安心して取り組むことのできる授業を実践し、生徒の学習意欲を高める。	「ICT機器の活用や、授業中の学び合いによって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：75%以上～90%未満である。 C：60%以上～75%未満である。 D：60%未満である。	A (90%)	授業改善により高い評価が出た。中間評価よりやや低下した要因は、緊張感の低下、生徒間の人間関係、新課程による授業準備の不足等が考えられ、これらを改善する。
	② ・学習目標を明確にし、努力の手段や方法をわかりやすくすることで学習意欲喚起を図り、家庭学習時間を増やす。	家庭学習時間調査の集計結果による、1日平均学習時間1時間以上の生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%以上～80%未満である。 C：40%以上～60%未満である。 D：40%未満である。	B (67%)	調査期間中に2年生修学旅行があったが評価を維持できた。しかし調査前休日の学習時間が大幅に減少し、課題の内容等に検討が必要である。
学校関係者評価委員会の評価		生徒に目標をできるだけ早く立てさせ、主体的な学習態度を持たせる。家庭学習は時間の長さだけでなく、効率も考慮に入れると良い。		
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		生徒との意思疎通を十分にはかり、生徒の目標を共有したうえで指導し、主体的な学習につなげる。スタディサプリ等の教材も活用しながら、多面的な学習により生徒の主体性を高めつつ、知識の定着を図る。		
2 進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育を充実するとともに、個に応じた指導を充実させ、進路実現（第1希望100%）を図る。	① ・進路説明会、社会人講座や企業見学会等により、進学や就職に対する意欲や必要な態度を身につける。	「進路説明会、社会人講座、各種マナー講座や企業見学会等が早期の進路決定のために参考になった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	B (84%)	1年生については進路説明会や企業見学がまだ実施していないこともあり、低い評価になった。また、社会人講座のあり方を変えたことも影響しているかもしれない。
	② ・保護者や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	B (87%)	担任とも連携し保護者が必要な進路情報を把握し、それに応えていく。
学校関係者評価委員会の評価		卒業生との交流をはかるなど、身近で生き生きとした経験談を伝えていく。		
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策		毎年「卒業生と語る会」を催しているが、先輩の働く姿を見せるなど多くの機会を作っていきたい。		
3 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、挨拶の励行を中心とした基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	① ・いじめアンケートを年3回以上実施するとともに、生徒全員に面談の回数を増やす。	「学校はいじめに対する取組をしっかりと行っている。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (90%)	個人面談の継続やいじめに対する学校の毅然とした取り組みの結果、90%とA評価であった。引き続き継続して取り組んでいく。
	② ・保護者と連携を図り、生徒自らも家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりに取り組む。	「家庭において、スマートフォン等の使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%以上～60%未満である。 C：40%以上～50%未満である。 D：40%未満である。	B (52%)	アンケートの結果を保護者に周知し、共通理解を持って指導したが52%とB評価であった。今後も家庭内ルールの遵守の継続に向けて保護者・生徒会と連携していく。

	③	・毎日登校指導をするとともに、全教員、生徒会、PTAと連携した挨拶運動週間を設定する。 ・授業規律としての挨拶指導をする。	「生徒は挨拶がしっかりできている。」と答える教職員の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (90%)	アンケートの結果90%と高い評価であった。後期も教職員が率先垂範しつつ、生徒会と連携した挨拶運動週間等を設ける等、取り組みを強化する。
	④	保健委員による定期的な美化活動や環境衛生に努め、整理整頓の習慣化を図るために、机ロッカーすっきり週間を設定する。	「身のまわりの整理整頓を心がけ、校舎内の清掃活動の際に自ら進んで環境美化に取り組むことができた。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (93%)	少人数だが、曜日等を工夫して取り組めた。今後は環境美化の重点項目も明確にし、今後も担任や掃除担当の先生方の協力を仰ぎ、保健委員による呼びかけも継続しながら、環境美化に対する意識向上を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価			制服を美しく着る週間で、制服等のたたみ方の指導もしてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策			今後集会等で指導していきたい。		
4 地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを総合的な探究の時間を通して推進する。	①	・ホームページの充実や志賀高だより等の配付物を定期的に発信し、情報発信の強化を図る。	「ホームページや志賀高だより等の情報発信が積極的に実施され、学校の取組がよく分かり、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	A (93%)	ABの合計が93%であり、高評価を得ることができた。日ごろから学校行事を詳細に掲載し、継続してきた結果である。次年度も継続して取り組んでいく。
	②	・関係機関等と連携した教育活動を充実させる。	教職員は地域交流に参加し、地域に支えられている魅力ある学校づくりに、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	A (95%)	志賀ロータリークラブや地域ボランティア活動等の地域交流を行い、生徒の個性を伸ばすために積極的に参加している。引き続き取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価			志賀高校は十分地域の要望に答えている。今年度から回覧板に志賀高だよりも入り、地域の方が志賀高校を知る良いきっかけとなっている。地域の団体と協力・連携をしていけばよいと思う。		
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策			今後も情報発信を積極的に行い、地域と連携し地域に根差した活動を行っていく。		
5 教職員多忙改善 時間管理を意識し、業務の分担と協力体制の確立およびICTの活用により、業務の効率化を図る。	①	・教職員の働き方を更に見直し、担当業務に対してタイムマネジメントを徹底し、業務の平準化に取り組み、時間外勤務の縮減を図る。	タイムマネジメントを意識し、業務に見通しを持って取り組み、毎月の平均超過勤務時間が、 A：40時間以内を達成した。 B：45時間以内であった。 C：55時間以内であった。 D：55時間を超過した。	A (95%)	教職員全体の平均超過勤務時間は、31.1時間であった。、多忙化改善の意識は浸透しつつあり部活動で超過勤務とならないよう顧問を担当割りするなど工夫する。
			各課・学年主任が業務の平準化に取り組み、メンバー一人ひとりが業務に見通しを持って、 A：取り組めた。 B：まずまず取り組めた。 C：あまり取り組めなかった。 D：ほとんど取り組めなかった。	A (100%)	全職員がAかBに当てはまり計画的に役割分担を行い、多忙化改善と業務の平準化を図ることができた。今後も継続して取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価			多忙化改善は順調に進んでいる。一人の先生が仕事を抱えるのではなく、仕事の平準化と効率化を考えていけばよい。		
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策			校務分掌での配慮や業務の平準化に一層取り組みたい。		

